



Kanta Kimura 'D.121', 200x170cm, 2018, oil on canvas

「1.2.3.4.5」

2018.11.04 – 2018.12.27

秋吉風人 (あきよしふうと)

1977年 大阪府生まれ。名古屋芸術大学大学院美術研究科修了。

2011年より文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリンに滞在、2018年に帰国。

主な参加展覧会に、2010年「絵画の庭—ゼロ年代日本の地平から」(国立国際美術館、大阪)、2011年「あいちトリエンナーレ」(愛知県美術館、愛知)、2013年「さわらないでください!?(常設特別展)」(豊田市美術館、愛知)、2014年「VOCA展 2014 現代美術の展望 - 新しい平面の作家たち」(上野の森美術館、東京)、2015年「Adherence」(SEXAUER、ベルリン)、2016年「if nothing else」(NON Berlin、ベルリン)、2017年「ポーラミュージアムアネックス展 2017 - 織細と躍動」(ポーラミュージアムアネックス、東京)など。

Kanta Kimura (勘太・木村)

1982年ドイツ・コーブレンツ市生まれ、2008年ベルリン国立芸術大学絵画部修士課程修了。画家。

2018年『Material 4.0』Galerie der Stadt Sindelfingen (シンデルフィンゲン市、ドイツ)、2018年 -flat wave, Kunstverein Mittelrhein, (コーブレンツ市、ドイツ)、2014年 -Kanta Kimura, Teil VII, Oel-Früh Cabinet (ハムブーグ、ドイツ)、2016年 Vitales Echo, Künstlerhaus Bethanien (ベルリン、ドイツ)

工業ロボット開発会社 FANUC とのコラボレーションでペインティングのプロセスを一貫した厳密のインダストリアル・プロセスに進達し、ペインティングの自動プロセスを開発した。液状の油性ペンキをブラシでキャンバスにつけ、工業ロボットでペンキを一本一本、圧搾空気で押し退けるペインティング・プロセス。

鬼頭健吾 (きとうけんご)

1977年愛知県生まれ。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。フラフープやシャンプーボトル、スカーフなど日常にありふれた既製品を使い、そのカラフルさ、鏡やラメの反射、モーターによる動きなど、回転や循環を取り入れた大規模なインスタレーションや、立体や絵画、写真など多様な表現方法を用いた作品を発表している。主な展示に 2017年「MULTIPLE STAR」ハラミュージアムアーク現代美術ギャラリーA(群馬)、2016年現代ドロージング国際芸術祭「KENGO KITO STRUCTURES」BARBARA(ポーランド)など。

佐藤克久 (さとうかつひさ)

1973年広島県生まれ。愛知県在住。「何も言わないことを言うために」という矛盾に対峙しながら絵画形式を中心に制作している。絵が成り立つための要素を「選ぶ」という当たり前のことを本質的単位として制作する。

2015年よりコミッティを務める MAT,Nagoya では、アートとこの地域の関連について考え、また制作者として美術を続ける中からみつけた課題や危機感などを根底に地元にゆかりのある作家との展覧会「絵画の何か part1,part2」、トークシリーズ「絵画のタベ」を企画。主な展示に 2016年「あいちトリエンナーレ 2016」(名古屋市美術館、愛知)、「放課後のはらっぱ—櫃田伸也とその教え子たち」(愛知県美術館/名古屋市美術館、愛知)、「反重力 浮遊 | 時空旅行 | パラレル・ワールド」(豊田市美術館、愛知)他。

大和美緒 (やまとみお)

1990年滋賀県生まれ。2015年京都造形芸術大学 大学院 総合造形領域終了。「この時代に "生きる" とはどういう事なのだろうか。このシンプルで複雑な疑問に、私の興味が尽きる事はありません。"REPETITION" シリーズでは、無機的なモチーフを何度も繰り返し描き続けます。その過程でモチーフは少しずつ変化し、有機的な揺らぎを孕みます。」主な展示に 2015「ART AWARD tokyo marunouchi 2015」(丸ビル 1F マルキューブアトリウム / 東京)

、「CAF ART AWARD 2015」(3331 arts chiyoda/ 東京)、2017年「VIVID-STILL 静か、鮮烈で_」(Gallery PARC / 京都) など。